慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	太鼓でつなぐ「アフリカ」の記憶 : サンテリーア儀礼太鼓奏者のライフストーリー
Sub Title	Passing down the memory of "Africa" with the bata drums : life stories of the tamboreros.
Author	工藤, 多香子(Kudo, Takako)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究はアフロキューバ宗教の一つサンテリーアにおける儀礼太鼓(バタ)奏者のライフストーリーを聞き取ることで, 太鼓奏者集団や太鼓の系譜, 彼らの信仰の実践を明らかにすることを目的としている。2017年3月には本研究の事前調査を行い, その結果に基づいた本調査を8月18日～9月5日の調査旅行で実施した。 調査の中心となったのは, Adofoと呼ばれている, キューバで最も古いバタの一つに関わってきた人々へのライフストーリーの聞き取りである。ハバナ市内で7人にインタビューを実施したが, 多くの調査協力者がすでに高齢のため, 記憶は曖昧で情報も錯綜しており, Adofoの所有者と演奏者の明確な系譜を示すことは困難だった。しかし, 20世紀前半, 儀礼の母体となる組織が解体していくなかで, Pablo Roche, Miguel Somodeville, Jesus Perez, Nicolas Angarica, Pedro Aspirinaといった「伝統継承者」を中心に太鼓奏者のネットワークが再編されてきたという仮説が浮かび上がってきた。また, 彼らがいずれもAdofoに関与してきたこと, さらにこの太鼓の制作者であるAdofo本人が, 「アフリカの伝統」に忠実と考えられているMatanzas州の出身であることが, この太鼓の「正統性」の理由として指摘されていることもわかった。しかし, Adofo本人に関する情報はハバナ市内ではほとんど詳らかにならなかった。Adofoの系譜をたどるためには, Matanzas州での調査が今後の大きな課題となった。 Adofoの太鼓に関してはまだデータが不十分だが, インタビューを通して, キューバ革命前の貧困地区での生活のようす, そこでの生活からいかにしてサンテリーア信者や太鼓奏者になったのかについてたくさんの証言を得られた。これに関しては論考をまとめ, 2018年11月にハバナで開催されるキューバ文化人類学会で発表する予定である。 The object of this study is to trace the genealogy of los tambores batá, which are considered sacred by the practitioners of Santería, one of the Afrocuban religions, and to see how the network of the tamboreros (drum players) works to keep their tradition alive. I carried out a fieldwork from Aug. 18 to Sep. 5 in Havana City and Matanzas City, interviewing mainly the tamboreros who have worked with the set of tambores batá called Adofó, one of the oldest in Cuba, about their life stories.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年 4 月 6 日

2017 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	経済学部	職名	准教授	補助額	300 （A） 千円
	氏名	工藤 多香子	氏名（英語）	Takako Kudo		

研究課題（日本語）

太鼓でつなぐ「アフリカ」の記憶
―サンテリーア儀礼太鼓奏者のライフストーリー

研究課題（英訳）

Passing Down the Memory of "Africa" with the Bata drums: Life Stories of the Tamboreros.

１．研究成果実績の概要

本研究はアフロキューバ宗教の一つサンテリーアにおける儀礼太鼓(バタ)奏者のライフストーリーを聞き取ることで、太鼓奏者集団や太鼓の系譜、彼らの信仰の実践を明らかにすることを目的としている。2017 年 3 月には本研究の事前調査を行い、その結果に基づいた本調査を 8 月 18 日～9 月 5 日の調査旅行で実施した。

調査の中心となったのは、Adofo と呼ばれている、キューバで最も古いバタの一つに関わってきた人々へのライフストーリーの聞き取りである。ハバナ市内で 7 人にインタビューを実施したが、多くの調査協力者がすでに高齢のため、記憶は曖昧で情報も錯綜しており、Adofo の所有者と演奏者の明確な系譜を示すことは困難だった。しかし、20 世紀前半、儀礼の母体となる組織が解体していくなかで、Pablo Roche, Miguel Somodeville, Jesus Perez, Nicolas Angarica, Pedro Aspirina といった「伝統継承者」を中心に太鼓奏者のネットワークが再編されてきたという仮説が浮かび上がってきた。また、彼らがいずれも Adofo に関与してきたこと、さらにこの太鼓の制作者である Adofo 本人が、「アフリカの伝統」に忠実と考えられている Matanzas 州の出身であることが、この太鼓の「正統性」の理由として指摘されていることもわかった。しかし、Adofo 本人に関する情報はハバナ市内ではほとんど詳らかにならなかった。Adofo の系譜をたどるためには、Matanzas 州での調査が今後の大きな課題となった。

Adofo の太鼓に関してはまだデータが不十分だが、インタビューを通して、キューバ革命前の貧困地区での生活のようす、そこでの生活からいかにしてサンテリーア信者や太鼓奏者になったのかについてたくさんの証言を得られた。これに関しては論考をまとめ、2018 年 11 月にハバナで開催されるキューバ文化人類学会で発表する予定である。

２．研究成果実績の概要（英訳）

The object of this study is to trace the genealogy of los tambores batá, which are considered sacred by the practitioners of Santería, one of the Afrocuban religions, and to see how the network of the tamboreros (drum players) works to keep their tradition alive. I carried out a fieldwork from Aug. 18 to Sep. 5 in Havana City and Matanzas City, interviewing mainly the tamboreros who have worked with the set of tambores batá called Adofó, one of the oldest in Cuba, about their life stories.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）